

製品名: SLU7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17983**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	SLU7
別名	SLU7; Pre-mRNA-splicing factor SLU7; hSlu7
遺伝子 ID	10569.0
SwissProt ID	O95391
免疫原	抗血清はヒト SLU7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 113-162

背景

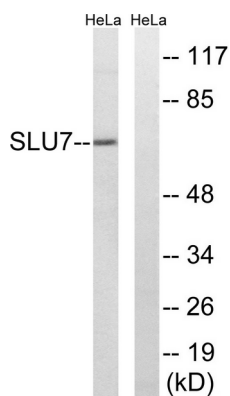
プレ mRNA スプライシングは、2段階のエステル交換反応を経て進行する。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プレ mRNA スプライシング過程における第2段階の触媒反応に必須であることが判明しているスプライシング因子である。このタンパク

質はスプライソソームと会合し、他のスプライシング因子にも見られる亜鉛ナックルモチーフを有し、タンパク質-核酸間およびタンパク質-タンパク質間相互作用に関与する。[RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン: CCHC型ジンクフィンガーは、タンパク質を核内に保持し、CRM1経路を介して細胞質へ逆流するのを防ぐために必要である。機能: プレ mRNA スプライシングの第2段階の触媒反応に関与する。この段階では、エクソン1の遊離ヒドロキシル基が3'スプライス部位を攻撃し、スプライスされた mRNA と切除されたリアットイントロンを生成する。エクソン1をスプライソソーム内に適切に保持し、3'スプライシング部位領域に複数の AG 候補が存在する場合に AG を正しく識別するために必要である。近位 AG の活性化に関与している可能性がある。おそらく選択的スプライシングの調節にも関与している。類似性: SLU7ファミリーに属する。類似性: CCHC型ジンクフィンガーを1つ含む。細胞内局在: 主に核内。核と細胞質間の移動は CCHC 型ジンクフィンガーによって調節される。UV-C ストレス刺激を受けると、タンパク質の核内濃度が低下し、選択的スプライシングに影響を与える。サブユニット: 後期スプライソソーム複合体の構成要素。ステップ II の3'スプライス部位が認識される前に、おそらくステップ I の触媒中に、スプライソソームと会合する。

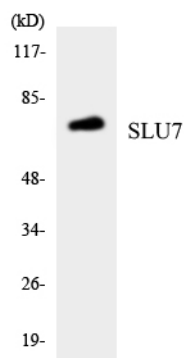
研究分野

スプライソソーム;

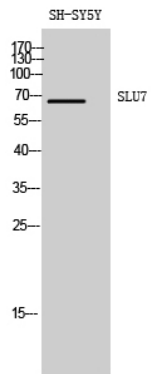
画像データ



SLU7 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SLU7 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



SLU7 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた SH-SY5Y 細胞のウェスタンブロット解析